

短大特任教員教育研究業績書

平成 30年 4月 1日

氏名	ふりがな	所属	職 位	性別
小林 宜義	こばやし のりよし	保育学科 通信教育課程	教授・准教授・講師・ 助教	男 ・女
担 当 科 目 名				
身体表現Ⅰ 身体表現Ⅱ				
学 歴				
和暦(西暦)年 月	事 項			学位
平成2年(1990年)4月	日本体育大学 体育学部 体育学科 入学			
平成6年(1994年)3月	日本体育大学 体育学部 体育学科 卒業			学士(体育学)
平成21年(2009年)4月	国土館大学大学院修士課程スポーツシステム研究科入学			
平成23年(2011年)4月	国土館大学大学院修士課程スポーツシステム研究科終了			修士(体育科学)
平成23年(2011年)4月	国土館大学大学院修士課程スポーツシステム研究科研究生(平成25年3月終了)			
教 育 歴 ・ 職 歴				
名 称	期 間	教 育 内 容 又 は 業 務 内 容		
神奈川県川崎市立南原小学校	平成18年9月～現在に至る	特別非常勤講師「体育科目(体づくり運動・水泳)」「体育科目(特別支援学級)」		
帝京平成大学地域医療学部	平成25年4月～平成27年	非常勤講師「教職科目水泳実技」		
東海医療学園専門学校アスレチックトレーナー専攻	平成28年4月～現在に至る	非常勤講師「コーチング論Ⅰ・Ⅱ」「発育発達論」「競技者システム論科目担当」		
日本ウエルネス保育専門学校	平成30年4月～現在に至る	非常勤講師「体育実技」「体育講義」「幼児体育」		
小田原短期大学	平成30年4月～現在に至る	保育学科数新教育課程 助教「身体表現Ⅰ」「身体表現Ⅱ」		
所 属 学 会 等				
名 称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)		
オーストラリアスポーツ医科学会	平成21年4月～現在	大会参加・ポスター発表		
日本体力医学会	平成23年4月～現在	大会参加・ポスター発表		
日本発育発達学会	平成27年4月～現在	大会参加・ポスター発表		
北関東体育学会	平成29年9月～現在	大会参加・論文投稿(査読付)		
社 会 活 動 等				
名 称	活動期間	活 動 内 容		
日本体育協会指導者育成事業	平成19年10月～平成25年10月	ジュニアスポーツ指導者研修会において「コーディネーションの能力を高める運動」において指導助手・講義を担当		
富山県体育協会主催アスリート育成事業	平成20年1月～平成26年7月	「未来のアスリート育成事業」における身体育成プログラムの指導を担当		
東京都足立区立保育園における依頼指導	平成20年9月～現在	子育て仲間づくり事業の一環として、区立保育園において運動指導・保育士への指導研修・保護者への講演を実施		
東京都足立区指導者育成事業	平成21年5月～現在	(公財)足立区生涯学習振興公社主催スポーツ指導者研修会講師		
広域スポーツセンター機能強化事業	平成23年6月～平成24年12月	福井県広域スポーツセンター主催「文部科学省受託事業」において県内総合型スポーツクラブにおいて指導を担当		
健康運動実践指導者更新研修事業	平成24年9月～現在	(公財)埼玉県健康づくり事業団主催する指導者資格更新研修会講師		
神奈川県内スポーツ指導者育成事業	平成29年7月～現在	神奈川県立体育センター及び(公財)小田原市体育協会主催の指導者研修会講師		

担当教科目に関する資格・免許等				
名称	取得年月	取得機関		
競泳公認コーチ	平成10年10月	(公財) 日本体育協会		
ジュニアスポーツ指導員	平成18年10月	(公財) 日本体育協会		
AHABLS (CPR & AED)	平成21年8月	国際救命救急協会		
研究実績に関する事項				
代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文) 1 「特別支援学級に在籍する児童の社会生活能力向上のためのコーディネーション運動プログラム開発に関する実践的研究」	共著	平成27年3月	帝京平成大学紀要 26,133-144	動きの調整力発達促進に有効であるとの多くの報告が挙げられているコーディネーション運動を特別支援学級に在籍する児童に実施し、社会生活能力にどのような変化があるかを検証した。自己統制やコミュニケーションなどに大きな変化が見られた。 小林宜義, 松本高明, 竹内京子, 卯木昌史, 永田史子, 吉田隆, 田中康子
2 「止まる動きを含んだコーディネーション運動が小学校低学年の体力・運動能力に及ぼす影響」	共著	平成26年3月	帝京平成大学紀要 25,151-159	運動制御機能が必要とされる「止める動き」に着目し、それらの動きを含んだコーディネーション運動とこれまでの効果があると紹介をされているコーディネーション運動にどのような運動能力の向上に変化の違いがあるかを検証した。「止まる動作」を含んだコーディネーション運動群に大きな体力・運動能力の向上が見られ、有意差も認められた。 小林宜義, 望月明人, 松本高明, 三島隆章, 竹内京子, 吉田隆
(学会発表) 1 「下肢の制御機能の動きを含んだコーディネーション運動が園庭の無い保育所に在籍する園児の体力・運動能力に及ぼす影響」	共同	平成29年9月	第72回 日本体力医学会大会 - 愛媛県松山市	コーディネーション運動の中でも下肢の制御機能の動きを含んだエクササイズが、園庭のない保育園に在籍する4歳児に及ぼす影響を検討することを目的とした。結果、室内の活動でも敏捷性や瞬発力に対して正の効果と及ぼすことが認められた。したがって、園庭が無い保育所に在籍する幼児に対して体力・運動能力を高めるのに効果的な手段であることが示唆された。小林宜義, 酒井俊郎, 松本高明, 三島隆章, 竹内京子, 佐々木恵美子
2 「コーディネーション運動による小学校低学年の身体平衡性機能向上のための実践的研究」	共同	平成29年3月	第15回 日本発達発達学会大会 - 岐阜大学	コーディネーション運動を小学校低学年に実施し、身体平衡性機能にどのような変容が見られるかを調査研究することを目的とした。結果閉眼時における単位面積軌跡長の項目において有意に短い指標を示した。小林宜義, 酒井俊郎, 松本高明, 三島隆章, 柏崎京子, 青木あゆこ
3 「放課後子ども教室のためのコーディネーション運動プログラムに関する実践研究 第2報」	共同	平成28年9月	第71回 日本体力医学会大会 - 岩手県盛岡市	放課後子ども教室における、運動能力の変化に関する調査研究においてコーディネーション運動指導を担当し、どのような影響が認められるかを調査することを目的とした。男女とも20m走、反復跳び、立ち幅跳びなどの記録増加した ($p > 0.05$)。また、生活リズムの改善も見られた。小林宜義, 酒井俊郎, 松本高明, 三島隆章, 武田たかね, 吉田隆
4 「コーディネーション運動が幼児の身体平衡性機能向上に及ぼす影響について」	共同	平成28年3月	第14回 日本発達発達学会大会 - 神戸大学	身体協調性機能の開発手段として注目されているコーディネーション運動を年長クラス園児に実施し、身体平衡性機能にどのような変容が見られるかを調査することを目的とした。単位面積軌跡長、総軌跡長において統計的有意差 ($p < 0.05$) が認められた。小林宜義, 酒井俊郎, 松本高明, 三島隆章, 佐々木恵美子
5 「コーディネーション運動が幼児期の体力・運動能力に及ぼす影響」	共同	平成27年9月	第70回 日本体力医学会大会 - 和歌山県和歌山市	多様な動きの獲得や運動に親しむ資質や能力の向上のための手段として注目されているコーディネーション運動を4歳・5歳児に実施し、20mダッシュ、反復跳び、立ち幅跳び種目に有意な伸び ($p < 0.05$) を示し、幼児に対して体力・運動

<p>6 「Effect of Jumping Coordination Exercises on Physical Fitness and Motor Ability of Nursery School Children」</p> <p>7 「コーディネーション運動が特別支援級に在籍する児童の社会生活能力に及ぼす影響」</p> <p>8 「止まる動きを含んだコーディネーション運動が小学校低学年の体力・運動能力に及ぼす影響」</p> <p>(その他)</p> <p>1 「水泳力が高まるコーディネーショントレーニング」</p>	<p>共同</p> <p>共同</p> <p>共同</p> <p>共著</p>	<p>平成 25 年 10 月</p> <p>平成 24 年 9 月</p> <p>平成 23 年 9 月</p> <p>平成 21 年 4 月</p>	<p>オーストリアスポーツ医科学会</p> <p>第 67 回 日本体力医学会大会 - 岐阜県岐阜市</p> <p>第 66 回 日本体力医学会大会 - 山口県下関市</p> <p>月間SWIM 第4巻 第4号 通巻 35</p>	<p>能力向上を高めるのに効果的な手段であることが示唆された。 <u>小林宜義</u>、酒井俊郎、松本高明、三島隆章、竹内京子、佐々木恵美子</p> <p>児童の運動能力を高められるとの報告が多く挙げられているコーディネーション運動に着目し、幼児期の子どもの体力・運動能力にどのような変化が見られるかを検証した。その結果スピード、敏捷性、瞬発力、平衡感覚などの運動機能に向上が見られ、有意差も認められた。 <u>N. Kobayashi</u>, <u>A. Mochizuki</u>, <u>T. Masumoto</u>, <u>T. Mishima</u>, <u>K. Takeuchi</u>, <u>T. Yoshida</u></p> <p>学術論文項目記載</p> <p>学術論文項目記載</p> <p>水泳競技力や泳法スキルを高められる陸上や水中で行うコーディネーショントレーニングプログラムを実践指導・解説する。</p>
<p>その他 (表彰等)</p>				